

学校行事から

体育祭

三年応援団長 栄 慎之助

今年の体育祭は、練習の時に雨が降ることが多く、グラウンドでの練習がほとんどできませんでした。しかし、本番はみんなの祈りが通じたのか、良い天気になり、全学年が練習以上の力を発揮することができたと思います。三年生は、競技の部と応援の部でダブル優勝できるように一致団結して挑みました。競技の部では、練習の成果を存分に発揮することができ、二連覇を達成しました。応援の部では、どの学年も素晴らしい演舞を披露する中、何とか優勝することができました。体育祭がここまで盛り上がったのも後輩や先生、地域の方々のおかげだと思います。最後の体育祭は本当に楽しかったです。この伝統を後輩たちはさらに良いものに発展させながら受け継いでください。



文化祭

生徒会副会長 田中 優香

今年の文化祭は台風接近により悪天候でしたが、台風にも負けない生徒達の気持ちで伝わる素晴らしい文化祭となりました。各学級の出し物や有志ステージでは、それぞれの個性が出ていてとても見応えがあり、みんなで放課後まで残ったり、休日にも準備や練習をしたりしてきたからこそその感動がありました。生徒会執行部では、テーマソングの全体合唱を企画し、歌詞とともに写真をスクリーンに映し出すことをしました。練習風景などを見ながらみんなで歌った時の一体感は凄かったです。また、食物バザーや台風の中見に来てくださった方々を通して、保護者や地域の方々に支えられて居ることを改めて実感しました。本当にありがとうございました。

この文化祭により、団結することの大切さ、一生懸命頑張った後の達成感など多くの事を学ぶことができました。この経験を生かし、より良い古仁屋高校にしていけるよう、これからも頑張っていけます。



3年1組
「M・ストーリー3」

3年2組
「うらの名は。」



修学旅行

二年生主任 中村 尚美

三都巡りの旅

二年生は、十二月五日から三泊四日の日程で、奈良・京都・大阪の三都を巡る修学旅行を実施しました。これまで「総合的な学習の時間」などで準備を進め、出発の日を心待ちにしてきました。生徒の感想とともに、この旅を振り返ってみます。

【十二月五日(一日目)】

学校を出発し、飛行機で伊丹空港へ移動。最初の目的地である奈良公園に着いたのは十五時三十分頃でした。

―奈良公園の感想―

「教科書で知っていた東大寺の大仏を間近で見る迫力はものすごく、細やかな装飾の技術にも感動した」「大仏の鼻の穴を再現した場所を、必死で通り抜ける体験は忘れられません」

【十二月六日(二日目)】

この日は、京都自主研修の一日です。市内の宿泊ホテルを八時に出発し、班ごとに立てておいた計画に

沿って、お目当ての場所を訪れました。

―京都自主研修の感想―

「観光客が多く、移動に予想以上の時間がかかって焦ったけれど、仲間同士協力し合って、行きたかった四箇所を制覇した」「紅葉の残る古都を五感で味わえた」「歴史ある建物の中は、思わず緊張してしまうほど厳かだった」「日本人であることを再確認できたし、もつと歴史を学びたくなった」「大学も見に行ってみた。学生が実際に活動している所を見られて、進路への夢がふくらんだ」

【十二月七日(三日目)】



大阪梅田の宿泊ホテルを出発。商業都市ならではの町並みに圧倒されながらバスで移動し、まずは大阪城を見学。その後、ユニバーサルスタジオで過ご

しました。

―USJの感想―

「夢の世界を全力で楽しみ、のどが枯れました」「並んで待つ間も、普段以上に友人とたくさん話せて、絆が深まった感じがします」「夜空に浮かび上がる巨大なクリスマスツリーは、見たことのない鮮やかさで幻想的でした」



【十二月八日(四日目)】

連泊した大阪のホテルを出発し、伊丹空港へ。帰りの飛行機は揺れたものの、さすがに多くの者がぐっすり眠っていました。

【全体を通しての感想】

「奄美では見られないものを見て、聞いて、味わうことができました」「行く先々で、人の温かさに触れました。私も、奄美に來ら

れた人たちに対して、もつともつと親切にしてあげたいと思います」「事前学習でいろいろ調べておいてよかったです」「たくさんの人たちに支えられてこの旅行ができました。感謝したいです」

郷土を深く知ったなら

一学年主任 石川 正史

一学年では「郷土を探る」をテーマにして総合的な学習の時間を計画し「体験学習」を実施した。

十一月十四日の「企業見学・郷土研修」で、奄美開運酒造を訪問した。クラシックの音響による熟成が、黒糖焼酎の味をさらにマイルドにさせることに生徒達は興味を抱いていた。原料のみならず肥料も自社生産を目指すという話を聞き、奄美産のおいしさを世界へ広めようとする姿勢に感銘を受けた。続いて、近大マグロで知られる近畿大学水産研究所の奄美実験場を訪問した。普段は入れない施設に入らせていただき、完全養殖クロマグロだけでなくタイ

やクエなどの成長過程を見る貴重な機会を得た。また生簀に渡り、エサやりも体験させてもらった。世界で初めて成功したクロマグロの完全養殖から、優良品種の開発、そして世界の水産資源を持続させるためのさまざまな研究まで、他の機関との連携や情報提供も惜しみなくなされていることを知り、生徒たちは感激していた。

十二月五日には、「大島紬に関する体験学習」を行った。本場奄美大島紬協同組合青年部の方々から歴史や製法に関する講義を受け、参加者全員が着付けも体験した。始めは「着付けは難しそう」と思っていた生徒も少なくなかったが、丁寧な御指導のおかげで、自分で着付けができそうだと自信をもてたようである。十三工程という気の遠くなる多くの労力を想像しながら、紬を身にまとうと、「肌触りがスベスベする。」「紬を着ると背筋が伸びる。」「将来は自分で大島紬を買って、自分で着てみたい。」といった言葉が飛び交った。そうし

た様子がメディアにも取り上げられたことで、生徒たちはこの体験の意味を深化させたかもしれない。私達を育んでくれている豊かな奄美の自然や文化。そのすばらしさを生かそうと力を注ぐ人々の姿勢について深く知るといって体験をさせていただいた。これらの体験が三年次の進学・就職時に必ず生きるものと確信した。



近畿大学水産研究所見学の様子



奄美開運酒造見学の様子